

五五九番

事もなく 生き来しものを 老いなみに かかる  
恋にも 我はあへるかも

五六〇番

恋ひ死なむ 後は何せむ 生ける日の ためこそ  
妹を 見まく欲りすれ

五六一番

思はぬを 思ふと言はば 大野なる 三笠の社の  
神し知らさむ

五六二番

暇なく 人の眉根を いたづらに 搔かしめつつ  
も 逢はぬ妹かも